

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 40 週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 9 月）

第 40 週の感染症情報（9 月 30 日(月)～10 月 6 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.06	→	→	→	↑
2	手足口病	0.91	↓	↓	→～↓	↑↑
3	RS ウイルス感染症	0.76	→～↑	↑	→～↑	→～↓
4	水痘	0.65	↑	→～↑	↑	↑
5	突発性発しん	0.41	→～↑	→～↑	→～↑	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（39→40週）は69→86例と推移した。上位5疾患は、①感染性胃腸炎（23→29例）、②手足口病（19→16例）、③水痘（9→14例）、④RS ウイルス感染症（6→9例）、⑤突発性発しん（4→7例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が3例あった。基幹定点の報告はなかった。

（有山 記）

県北部外来状況 寒暖の差が一日で激しく、いわゆる風邪の人は増えています。一方、対象感染症はほとんどありません。そろそろ夏風邪も終わりのようです。RS ウイルス感染症は時々みられます。2才以上になると咳は目立たず鼻水と熱は朝無く夕方から上昇する子があります。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 84 例で、前週報告の 83 例とほぼ変わらず。上位 3 疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③手足口病で、以下 A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しん（すべて 6 例）が同順で続いていた。RS ウイルス感染症の報告数（14 例）は、やや増加した。手足口病の報告数（12 例）も、やや増加した。水痘の報告数（6 例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（6 例）は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の

報告数（28 例）は、やや減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（6 例）も、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が、各々順に 4 例、1 例の計 5 例あったが、両管内基幹定点からの報告は共になかった。

（村井 記）

県中部外来状況 外来数は一時増加に見えたが、現在多くない。軽度の感冒程度が多く、ヘルパンギーナ等夏風邪も減少し登録疾患は少ない状況。RS 気管支炎は多くない。感染性胃腸炎も多くななくロタもまだない。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（39→40 週）は 15→24 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（5→13 例）、②RS ウイルス感染症（4→3 例）、③手足口病（3→3 例）、④水痘（0→2 例）、⑤咽頭結膜熱（0→1 例）、⑥突発性発疹（0→1 例）、⑦ヘルパンギーナ（1→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 手足口病、ヘルパンギーナは散見するも減少。RS ウイルス感染症は依然と多い。入院例は炎症反応亢進を認めた。また、10 月に入ってからウイルス性胃腸炎が増加、特にノロウイルス様に嘔吐が半日～1 日続く例がみられた。

（寺田 記）

感染症情報センターホームページ

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

【病原体（ウイルス）検出情報（平成25年9月）】

病原体定点医療機関から保健研究センターに搬入された検体について、9月に検出したウイルスは以下のとおりです。

（平成25年9月検出分）

検出病原体		北部	中部	南部	臨床診断名
RS		2	5		細気管支炎(2)、喘息性気管支炎(1)、気管支肺炎(1)、肺炎(1)、RS感染症疑い(2)
アデノ	1		2		感染性胃腸炎(1)、便秘症(1)
アデノ	40/41		2		アデノウイルス胃腸炎(2)
エコー	11		1		夏風邪症候群(1)
エンテロ	71		1		手足口病(1)
コクサッキー	A6		2		手足口病(2)
コクサッキー	A8		1		夏風邪症候群(1)
コクサッキー	A10		1		夏風邪症候群(1)
コクサッキー	B1		4		夏風邪症候群(1)、ヘルパンギーナ(2)、無菌性髄膜炎(1)
コクサッキー	B3		1		便秘症(1)
コクサッキー	B5	2	1		便秘症(1)、手足口病(1)、ヘルパンギーナ(1)

